



# 「臥竜鳳雛」



\*タイトルの意味は？調べてみよう

2020・1・30 第17号

学年主任 森本 聡一郎

## 1. 「小倉百人一首大会を終えて」

1月29日(水)の5・6限に74回生で百人一首大会を実施しました。1年生のかかるた部2人と放送部が司会・進行をしました。城北畑小学校5・6年生との合同実施は小学生のインフルエンザ流行のため見送りとなり残念でしたね。クラスの垣根を越え、予想以上に盛況でした。なかには、上の句を少し読み上げると、「ハイッ」と札に手を伸ばす生徒もあり、さすがは篠山の子どもたちですね。ここで、少し「百人一首」について解説します。

百人一首とは、百人の歌人の歌をそれぞれ一首ずつ撰んで集めた歌集です。その代表格である小倉百人一首は、藤原定家(1162~1241)が、飛鳥時代の天智天皇から鎌倉時代の藤原家隆・雅経にいたるまでの代表的な歌人、百人の歌を撰んだものです。定家の日記、『明月記』によると百人一首を撰定するきっかけは、定家の息子為家の妻の父である宇都宮頼綱の依頼によるものであろうということです。

百人の歌を歌集にすることは平安時代から盛んに行われていましたが、“百人一首”という名称は、室町時代頃から用いられるようになったと考えられています。“小倉百人一首”もまた、定家が、百首を小倉山の山荘で撰んだことから、後世の人が名付けたものであって、定家がつけたものではありません。

### ■小倉百人一首の歌

小倉百人一首の歌は、『古今集』から『続後撰集』までの勅撰和歌集の中から厳選されたものが、ほぼ詠まれた時代順に撰集されています。歌を内容別に分類した部立では、恋が43首と最多で、どれにも属さない雑が20首、春夏秋冬、それぞれの季節を題材にした歌が数首ずつあります。それ以外には、羈旅(きりょ)といわれる旅情を詠んだ歌や離別を詠んだ歌もあります。

### ■小倉百人一首の歌人

小倉百人一首の歌人の大半は、天皇、貴族、僧侶です。なかには、猿丸大夫や蝉丸のような経歴のよくわからない伝説的歌人もいますが、平安以降の歌人の大半については、生没年・家族関係・経歴などから人物像を詳しく知ることができます。なお、定家が撰定した時には、承久の乱で鎌倉幕府に敗れた後鳥羽院・順徳院の歌は撰ばれていませんでした。小倉百人一首の撰定については、さまざまな政治的配慮が働いていたことがうかがわれます。

### 小倉百人一首大会結果

#### Aグループ

- 1位 堀井このみ(1年4組) 44枚
- 2位 内海 真菜(1年3組) 35枚
- 3位 上坂 美月(1年4組) 34枚

#### Bグループ

- 1位 酒井 愛奈(1年4組) 49枚
- 2位 甘中 海翔(1年2組) 48枚
- 3位 柳 友梨香(1年4組) 44枚

## 2. 「レベルアップ課題について」

進路担当 石元真理

二学期期末考査後にひっそりと始めた「レベルアップ課題」ですが、皆さん一度でも提出したことはありますか。

この課題は、国語・数学・英語の3科目で、普段の授業では扱いきれない問題を精選し、少しでもレベルアップしてほしい、と願いを込めて出しています。「レベルアップ」課題だけに、多少解くのに苦勞する問題ですので、提出は強制ではありません。しかし、「発展問題なんて、まだまだ先でいいか。」とと思っているうちに、あっという間に2年生になり、すぐに受験生です。時間は確実に流れていきます。今から少しずつ出来ることをしましょう。

また、すべての問題を解き切らなくても構いません。「よし！苦手だけどやってみよう。」「模試も頑張ってみよう。」と思う人は、積極的に利用してください。課題は、職員室前提出Boxに準備しています。解らないことは、教科担当者まで遠慮なく聞いてください。

進路実現においては、早期からの地道な取り組みが実を結びます。教科担当は、皆さんの課題を添削することを楽しみにしています。是非、チャレンジしてみましょう！

## 3. 「私の恩師 No.5」

4組担任 稲谷 英俊

### 私の恩師

私の恩師といえる人はおそらく高校時代の数学の先生だろう。50歳くらい、強面のおじさんでグローバルサイエンスコースの担任の先生だった。今となってはありえないほど個性的、いや、当時でもかなり異端だったであろう。常に箒の柄(棒)を持ち歩き、授業中は黒板や教卓を叩いて威圧していた。滅法厳しい先生で、授業開始のチャイムまでに教室に入っていないと、中から鍵を閉められて入れなかった。機嫌がいい日は廊下側の窓を開けてくれるので、遅れた人は窓から乗り出して授業を聞けたが、機嫌が悪いと窓も開けてもらえない。そんな人は仕方なく、廊下から耳を澄まして授業を聞いていた。授業中に誰かがうとうとしていると、棒で教卓をガツンと叩いて授業は強制終了、先生は職員室に帰ってしまう。委員長が再授業をお願いしに行っても、「自分たちで勉強しとけ。」と一蹴されるだけで、絶対に教室には戻ってこなかった。移動教室だったのでいつも鍵がかかっている、授業開始のチャイムまでに鍵を取りに行っていなければ、やはり職員室に帰ってしまう。授業では順番に当てられるのだが、答えられないとどんどん機嫌が悪くなりながら次の人へ当てていき、5人くらい答えられない人が続くと、怒鳴り声と棒を叩く音が響き渡る。恐怖とプレッシャーと闘いながらの授業だった。

私は3年間、その先生に数学I・II・IIIを教わった。教科書は全く使わない先生で、私の3冊の教科書はまっさらなまま、ただ膨大な量の宿題プリントだけが残った。前述のとおり何をされるかわからなかったので、数学の授業だけは本気で取り組んだ。予習・復習や宿題はもちろん、授業態度から教室の鍵の準備まで、必死でこなし。結果として私が今、数学の先生をしているのは、間違いなくこの先生のおかげである。後から思えばこの先生の授業はピカイチだった。

皆さんは普段の授業にどれだけ本気で取り組んでいますか？今の時代、到底この先生のようなことはできませんし、私もなるつもりはありませんが、求められる力は今も変わりません。本気で、必死に物事に取り組んで、自分を高めてください。私より数学のできる人が、皆さんの中から出てくることを期待しています。